

前回の地層大切断面  
についての内容で誤り  
があると、読者から指  
摘があり、杜撰な記述  
にお叱りを受けた。発  
行者はじめ関係各位に  
ご迷惑をかけたことに  
お詫びしたい。

それは一層すつ違っ  
た時代の火山灰で形成  
されたのではなく、一  
回の噴火活動、すなわ  
ち同時代の噴火で積っ  
たものであること。大  
断面を構成するのは、  
ほぼ玄武岩質の噴出物  
で二万年分の堆積物で  
あり、大きく波打つ地  
層は、褶曲ではなく、  
元の地形の起伏に従っ  
て噴出物が降り積った  
ものだ、と教えられた。

## 伊豆大島で見たものは

②

「あんこ人形と  
椿の花びら染」  
18日  
小新聞  
2017年  
七月

三重大学  
特任教授 川口 祐二

また、大島の洋菓子店  
で切断面になぞった洋  
菓子も売られている、  
という。

念には念を入れの諺  
の通りだ。正鵠を誤ま  
ること甚しい。波浮の  
港には磯の鵜の鳥はい  
ても、何事も鵜呑みは  
禁物と反省しきり、ご  
報示戴いた方に感謝申  
し上げます。

伊豆大島はツバキの  
島。こはやはり椿と  
書いた方が落ちつきが

ある。元町港近くの藤  
井工房を訪ねた。藤井  
若い人には勧められな  
い、これが父の気持だ  
らう。丸屋根の口  
グハウスの中にたくさ  
んと人形が並んで、資  
を継ぎたいと思うよう  
な人形とコーヒー店も  
兼ね、部屋の一部がみ  
んなの工房になって  
いる。

時代に彫刻をやれと、  
井工房を訪ねた。藤井  
若い人には勧められな  
い、これが父の気持だ  
らう。丸屋根の口  
グハウスの中にたくさ  
んと人形が並んで、資  
を継ぎたいと思うよう  
な人形とコーヒー店も  
兼ね、部屋の一部がみ  
んなの工房になって  
いる。

人形の大半は父親重  
治(じゅうじ)さんの  
す。この姿をいつまで  
も。椿の原木を材  
も伝え残すために、一  
んこさん(島娘)は、  
神々しかったそうで  
治(じゅうじ)さんの  
す。この姿をいつまで  
も。椿の原木を材  
も伝え残すために、一

にして人形に彫ったも  
のである。あんこ人形  
という。生涯で大小一  
二万彫りあげたとい  
われる。重治さんは元  
町港の近くに小さな店  
を出し、こつこつと彫  
ったのを並べて売っ  
た、と虎雄さんが話し  
てくれた。素朴な木彫  
り人形は、大島を訪れる  
大勢の観光客の手に渡  
って行った。  
「島の将来がどうなる  
か分からない。そんな  
て一八年前に始めまし

た。人形の出来はまだ  
して貰うことができ  
まだ、月とスッポンで  
すよ。自分の椿山があ  
いう人。情熱的という  
るので材の手当ては心  
配なく、木を伐るとき  
は手伝っていましたか  
ら、人形にする枝の選  
別は出来るようになって  
いたんです」：丸い  
名の通り、椿の花び



盆の中で客を待つあんこ人形(藤井虎雄さん制作)

いってよい落ち椿の中  
を歩いて、花を拾いま  
す。拾ったのを水洗い  
して、きれいな花びら  
だけ、一枚ずつにはず  
してね。使えるのは、  
花一つで二、三枚です  
よ。それで染液を作り  
ます。染めあげるまで  
すべて手仕事ですから  
ね。島に生えている三  
万本の椿に、私たちは  
生かされているんです  
染めの作業を別のと  
き見せてほしい、と言  
ったら、「来年一月二  
八日から始まる『椿ま  
つり』の間にいらっし  
ゃいよ。ぜひ奥さまも  
ご一緒にね」：こんな  
誘いを受けた。日程を  
調整してお邪魔しま  
す、と約束した。

椿だけの広い庭があ  
った。花はしばらく先  
であろう。大小さまざ  
まな椿の植え込みに立  
って、『島の春椿は赤  
く海白し』の一句を思  
い出した。私の学窓の  
師暉峻康隆(てるおか  
やすたか)先生の作。  
「椿といえは大島が名  
高い。私も『於大島』の  
まえがきで一句」とし  
て詠んだ名吟である。  
(つづ)